中部様式

令和３年度　地域公共交通計画の評価結果　概要（全体）

三島市地域公共交通活性化協議会（三島市）

平成２９年４月７日設置

平成３０年７月　三島市地域公共交通網形成計画策定
計画期間　２０１８年（平成３０年）～２０２３年（令和５年）３月

令和４年１月１９日　令和３年度評価結果送付

1.直近の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
なし		

○三島市地域公共交通網形成計画　計画期間：2018年度～2022年度（5年）

目標：市の将来都市像の実現を支援する地域公共交通ネットワークを形成し、持続可能な地域公共通の確保・維持・改善を図る。まちづくり等と一体となった地域公共交通の再構築を図る。（三島市地域公共交通網形成協議会　2017年4月7日設置）

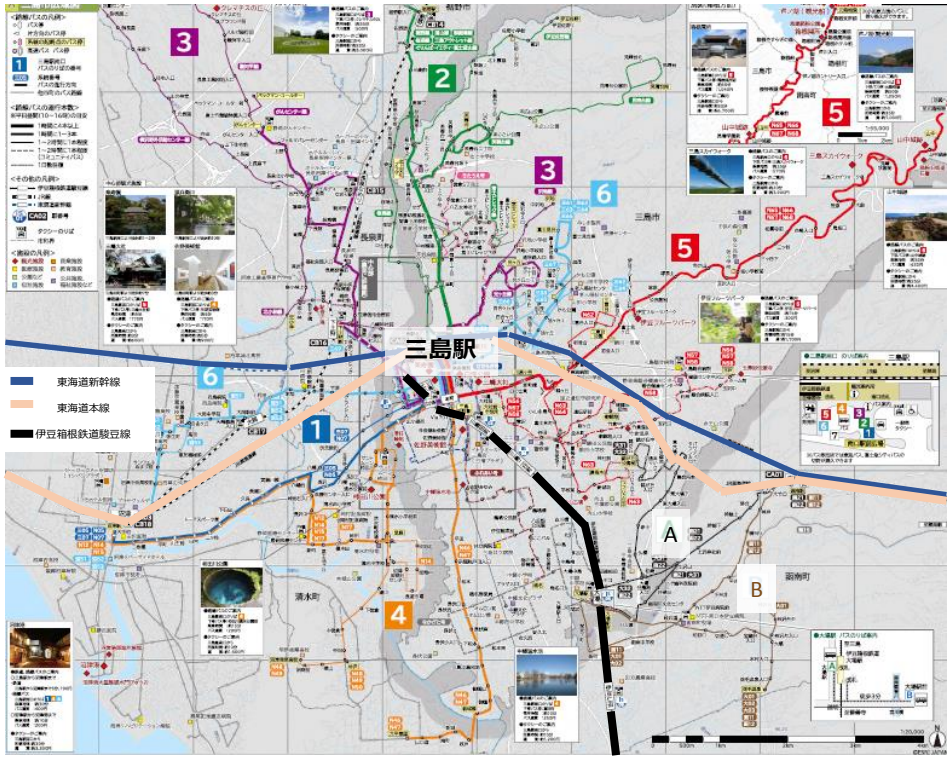
○地域の特性や概要

- 自家用車での移動率が最も高い（約56%）
- 高齢者の運転免許返納者数は増加傾向
- 鉄道は3路線運行（東海道新幹線、東海道本線伊豆箱根鉄道駿豆線）
- バスは路線バス６事業者（コミバス運行含む）が運行
- タクシーは４事業者（市内登録）が運行
- 公共交通の人口カバー率は全体で90.5%
- 少子高齢化（29.8%）人口減少により公共交通利用者の減少が懸念されている

○地域公共交通網の形成に向けた基本方針

①市民や来訪者にとってわかりやすく利用したいと感じる公共交通の構築を目指す。
②効率性と利便性の確保により持続可能な公共交通の構築を目指す。
③公共交通の利用促進に向けて関係者と一体となった協働体制の構築を目指す。
④コンパクトな都市づくりにつながる公共交通の構築を目指す。

＜公共交通ネットワーク図＞

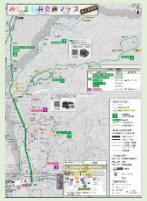
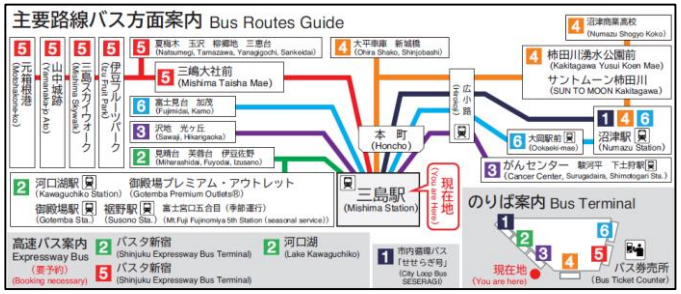


- 三島駅を中心に東西にJR、南進に私鉄が運行
- 路線バスは、三島駅を中心に大きく分けて６系統が運行（２、３、A、Bは地域間幹線系統）
- 中心市街地及び市南部の住宅地をぬうように市コミバス・循環バスが運行

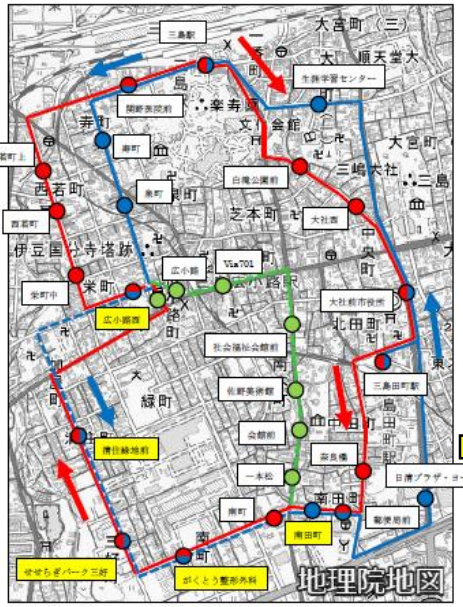
3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容（1/3）　（Do）

方針	目標および指標の設定	目標を達成するための事業	取組実績
基本方針１ **市民や来訪者にとって分かりやすく利用したいと感じる公共交通の構築を目指します** 市民や観光来訪者のニーズに対応した公共交通の維持、分かりやすさ等の魅力の向上を図り、利用したいと感じる公共交通の構築を目指します。	**【目標１】公共交通や移動の満足度の向上** 【指標 1-1】バスなどの公共交通の充実の市民満足度 2017 年度 22.8% → 2022 年度 30.0%以上 【指標 1-2】三島駅周辺（北口・南口）の整備の市民満足度 2017 年度 38.5% → 2022 年度 45.0%以上	A-1 利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実 A-2 公共交通に従事する人材確保	①マップ作成 ②乗り方教室 ③エコエコデーの実施
基本方針２ **効率性と利便性の確保により持続可能な公共交通の構築を目指します** 少子高齢化、人口減少、観光需要の変化等の社会環境に対応するため、効率性と利便性の確保、路線の役割分担の明確化、ネットワークの強化を図り、持続可能な公共交通の構築を目指します。	**【目標２】公共交通利用者数の維持・増加** 【指標 2】本市の公共交通利用者数 2016 年度 19,947 千人/年 → 2022 年度 19,947 千人/年以上（現況値以上）	B-1 駅周辺における分かりやすい方面案内の検討、実施 B-2 伊豆の玄関口、結節点としての機能強化（みしま・もてなし事業） B-3 待合環境の改善	①方面別路線カラー化 ②多言語化 ①案内サイン英語併記 ②タクシー配車アプリ導入 ③電子決済交通系IC導入 ①ベンチ1基設置
基本方針３ **公共交通の利用促進に向けて関係者と一体となった協働体制の構築を目指します** 公共交通事業者や関係機関と連携し、利用促進の取り組みを実施することで、協働による推進体制の構築を目指します。	**【目標３】利用促進等の協働の取り組み** 【指標 3】鉄道・バス乗り方教室等の利用促進活動の取り組み案件数 2017 年度 5 案件/年 → 2022 年度 5 案件/年以上（現況値以上）	B-4 結節点における路線接続強化 C-1 目的施設へのアクセス性向上	①デジタルサイネージ設置 ②タクシー乗り場サイン
基本方針４ **コンパクトな都市づくり（三島市の将来像）につながる公共交通の構築を目指します** コンパクト・プラス・ネットワークの将来都市像に向け、都市機能や拠点をつなぐ路線網の構築を目指します。	**【目標４】拠点、交通結節点の形成に向けた取り組み** 【指標 4】三島駅及び三島駅周辺での拠点形成に関する事業の取り組み案件数 2017 年度 － → 2022 年度 4 案件以上	C-2 幹となる交通軸の維持・確保 C-3 市内路線バスの維持・改善	①バス停ナンバリング ①経路見直し

上記の番号は事業番号を示す

事業	概要	実績
公共交通マップ作成	・公共交通サービス状況を知る、または、知るきっかけづくり ・利用者への情報提供	・「全域版」 ・「地域版」  ・「観光版（日本語・英語）」
案内サインの統一・ 方面別路線のカラー化	・バス乗り場の番線ごとを方面別カラー化することで、わかりやすさを向上させる ・路線の方面感覚をつかむことを容易にすることで移動のしやすさを向上する	バス路線の方面案内  ⇒バス停サインへの反映

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容　抜粋（3/3）　（Do）

事業	概要	実績
駅前広場案内板整備・デジタルサイネージ設置	・三島駅前に東伊豆・中伊豆地域公共交通活性化協議会によるデジタルサイネージを設置 ※三島市地域公共交通網形成協議会はデザインを作成 ・多方面のバス運行情報を一元化することで利用者の利便性向上と利用促進を図る	 ←デジタルサイネージ（南口）
市内路線の維持・経路見直し	・民間路線と市内循環路線とのすみ分けを行う ・片側循環の解消と買い物や通院に便利な経路を見直すことで利用者の利便性と利用促進を図る	 R2.R3乗降調査実証実験を実施 ●民間路線との重複を解消 スーパーや病院前を通るルートに変更

○三島市地域公共交通網形成計画における評価指標［中間評価］

目標	指標	策定時の現況値(2017年度)	中間評価年度の現況値(2020年度)	目標値(2022年度)
【目標１】公共交通や移動の満足度の向上に対する指標	【指標１－１】バスなどの公共交通の充実の市民満足度	22.8%	24.8%	30.0%以上
	【指標１－２】三島駅周辺（北口・南口）の整備の市民満足度	38.5%	32.1%	45.0%以上
【目標２】公共交通利用者数の維持・増加に対する指標	【指標２】本市の公共交通利用者数	19,947千人/年以上(2016年度)	－[参考]21,111千人/年（2019年度）	19,947千人/年以上
【目標３】利用促進等の協働の取組に対する指標	【指標３】鉄道・バスの乗り方教室等の利用促進活動の取り組み案件数	５案件/年	３案件/年	５案件/年以上
【目標４】拠点、交通結節点の形成に向けた取り組みの実施に対する指標	【指標４】三島駅及び三島駅周辺での拠点形成に関する事業の取組案件数	－	６案件	４案件以上

※指標２の利用者数は7月30日時点で集計中だったため参考値として2019年度を記載
※市民満足度は市民意識調査（5月に実施・無作為抽出・オンライン及び郵送回答）回答の数字
※進捗状況確認・評価はR２年2月6日、R3年7月30日に実施

○中間評価の概要

目標１：公共交通や移動の満足度の向上に対する指標

ア　指標１－１：バスなどの公共交通の充実の市民満足度

策定時より一時減少した年もあったが、上昇傾向にある。コロナ禍だが、今後ワクチン接種等の対策が進めば、回復も期待できると考える。

イ　指標１－２：三島駅周辺（北口・南口）の整備の市民満足度

策定年度の次年度から満足度が一時低下した（南口再開発に関する影響と考察）が、回復の兆しがみられる。

目標２：公共交通利用者数の維持・増加に対する指標

・指標２：公共交通利用者数

中間評価時点でＪＲ東海の2020年度の利用客数が公表されていないため指標の実績は計上できていないが、ＪＲ東海を除いた数値実績は新型コロナウイルスの影響により、令和元年度（2019年度）が8,901千人であったが、中間評価年度（2020年度）は6,193千人と大きく落ち込み約30%減となった。

目標３：利用促進等の協働の取り組みに対する指標

・指標３：鉄道・バスの乗り方教室等の利用促進活動の取組み案件数

目標値が年に５案件以上に対して、中間評価年度の現況値は3案件だった。

新型コロナウイルスの影響により、鉄道教室及び高齢者向けバス教室が開催できなかったことによる。

今後、感染拡大状況を考慮して再実施を検討。

目標４：拠点、交通結節点の形成に向けた取り組みの実施に対する指標

・指標４：三島駅及び三島駅周辺での拠点形成に関する事業の取組み案件数

目標値が年に４案件以上に対して中間評価年度は6案件だった。

これまで実施してきた三島駅北口及び南口の案内サイン、デジタルサイネージ等の整備に加え、タクシーの配車アプリの導入や電子決済・交通系ICのキャッシュレス決済などが進み計画に基づいた事業が実施できている。

中間評価では、計画策定時に想定していなかったコロナ禍を考慮する必要があり、一部達成できていない目標があるものの、公共交通利用環境の向上に向けた取組は継続的に推進できている。
今後、目標達成に向けて何ができるのか再検討する必要がある。

○目標の達成に関する課題

計画策定時に想定していなかったコロナ禍をふまえた上で、目標達成に向けて、今後どのようにすればよいか。

対応案

①まだ実施していない事業について実施を検討する
　例：公共交通に従事する人材確保（行政と連携して広報する、職業体験の実施など）

②市民意識調査の回答を再度丁寧に分析してニーズをくみとる
　設問「公共交通の充実の満足度」（満足、やや満足…）といった漠然とした問いだけでなく
　追加質問として、
　　①過去1年間に公共交通をどの程度利用しましたか
　　②公共交通を利用しての外出や移動がしやすいですか
　　③公共交通を利用しての外出や移動がしにくいと感じる理由は何ですか
　　と具体的な内容を設置済。得た回答から今後の対応について検討する（次頁に考察例）

○公共交通ネットワークに関する課題

持続可能な地域公共交通ネットワーク形成のため、今後、どのようにすればよいか。

対応案

　バスを利用しての外出がしにくいと感じる理由は「運行本数が少ない（44.8%）」、
　「自宅や目的地がバス停から遠い（18.8%）」とあるので、
　市内循環バスの経路見直しを行ったように、今後も効果的かつ効率的な路線再編を進め、
　近隣市町の動きも見ながら、持続可能な地域公共交通ネットワークについて検討していく

5.自己評価から得られた課題と対応方針　（Act）

例　市民意識調査の追加質問で得た回答からの分析と対応案の検討

〇「過去１年間に一度も公共交通を利用していない」と答えた割合が増加
　分析　：新型コロナウイルスの感染拡大から、公共交通を利用することに対して、感染への恐れや外出することへの引け目があると思われる。
　対応案：①利用者に公共交通では換気や消毒対応など安全策がとられていることを広報周知する
　②バスやタクシーでは交通系ICなど非接触型決済が順次導入されていることをPRし、便利かつウイルス接触感染防止につながっていることを周知する

その他、
〇各公共交通の移動しにくい理由
　＜鉄道＞　・「自宅や目的地が駅から遠い」
　→交通結節点について検証
　・「ICカードが使えないから（26.7%）」と10代・20代の回答
　→交通系ICは使えなくてもQRコードや電子マネーが使える駅があるとPRする
　＜バス＞　・「運行本数が少ない（43.9%）」
　→デマンドタクシーも考慮した路線維持や再編を検討
　・「遅れなどの運行情報が得られない（18.1%）」10代・20代の回答率が高い
　→アプリなど新しいサービスへの対応で潜在顧客獲得を検討する
　＜タクシー＞・「料金が高い（43.2%）」
　→現状配布している助成券以外に何が出来るのか今後検討する

丁寧に課題を分析し、情報やニーズを共有し、次のアクションにつなげていく

別添４

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

三島市地域公共交通網形成計画の評価等結果（2018年度～2020年７月時点）

目標	目標を達成するための取組 （複数の取組）	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1-1バスなどの公共交通の充実の市民満足度30%以上 1-2三島駅周辺（北口・南口）の整備の市民満足度45%以上	・駅周辺におけるわかりやすい方面案内の検討、実施など ・伊豆の玄関口、結節点としての機能強化 ・待合環境の改善 ・結節点における路線接続強化 ・目的施設へのアクセス性向上 ・幹となる交通軸の維持・確保 ・市内路線バスの維持・改善	アンケート（市民意識調査）	・1－1は24.8%で計画策定時22.8%より上昇傾向にある。 ・1－2は、32.1%で策定時38.5%より低くなっているが、2019年度の25.8%より上昇している。北口交差点の工事改良が2019年度に終わったことにより混雑緩和となったことが満足度向上につながった一因と考えられる。	・1-1の満足度は上昇傾向にあり、バス路線別のカラー化によるわかりやすさや地域公共交通マップをPRをすることで、駅周辺のわかりやすさや目的施設へのアクセス向上などの満足度を上げ、目標値達成を目指す。 ・1-2は南口東街区再開発に関する意見から対応可能な事象（例：待合環境の改善）がないか検討する。	
公共交通利用者数19,947千人/年以上（目標値は導入時現況値）	・利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実 ・結節点における路線接続強化 ・目的施設へのアクセス性向上 ・幹となる交通軸の維持・確保 ・市内路線バスの維持・改善	鉄道、路線バスの年間利用者数	・2020年7月の評価時点で集計できない数字があったため、2019年度の実績21,111千人/年を報告。 ・コロナの影響以前は、大型観光施設のみしまスカイウォークへ行く路線バスがお得な切符を販売し乗車数が年々増えてきていた。	・2020年度の結果をもとに再度評価したいが、今後、コロナウイルスの感染拡大状況によっては施策や目標値について見直しが必要な場合もありうる。	
鉄道・バスの乗り方教室等の利用促進活動の取組案件5案件/年以上（目標値は導入時現況値）	・利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実 ・公共交通に従事する人材確保 ・市内路線バスの維持・改善	実施件数	・3案件実施 ・コロナの影響で鉄道教室、高齢者向けバス教室が開催できなかったため。	・計画では5案件実施可能であったが、コロナウイルスの感染拡大のため、最終的に3案件となった。今後、コロナウイルスの感染拡大状況によっては目標値について見直しが必要な場合もありうる。	
三島駅及び三島駅周辺での拠点形成に関する事業の取組4案件以上（2022年度計画最終年時点）	・駅周辺におけるわかりやすい方面案内の検討、実施 ・伊豆の玄関口、結節点としての機能強化 ・待合環境の改善 ・結節点における路線接続強化	実施件数	・6案件実施 ・北口及び南口の案内サイン、デジタルサイネージ、タクシー配車アプリ導入、電子決済や交通系ICのキャッシュレス決済など計画に基づいて実施できている。	・計画最終年度よりも先行して目標達成済。	